

## 記者会見質疑応答

日 時 令和8年2月10日(火) 午前11時から  
場 所 第2応接室  
出席者 ○市 側：市長、木村副市長、総合政策部長、総務部長、財政部長  
○記者側：10社14名参加  
発表内容 ・第18回市議会定例会の招集告示について

### <案件について>

#### ○北海道新聞社

市長は昨年12月からの就任だったので、途中ということなのですが、今年は初の本格的な予算編成というような形になるかと思いますが、ご自身でカラーを発揮できたと思うところ、意識したところなどがあれば教えていただければと思います。

#### ■市長

令和7年度予算については、「こども どもんなかアクション」を中心に予算を組ませていただきましたけれども、おっしゃられるとおり時期的なものもあって、全面的に私に関われたかというところではないのかもしれませんが、今年度は様々な事業の内部査定も含めて、私に関わってやってまいりました。

先ほどありましたように、重点的に取り組むものとしてはスポーツ都市宣言60周年ということもあり、選ばれるまちプロジェクトとして「スポーツシティ苫小牧プロジェクト」こちらを重点的にやっていくということを位置づけております。

それ以外にも、令和7年度で取り組んでおります「こども どもんなか」こういったものも継続的に行っていきますし、様々なGX、DXを含めた経済的な取り組みもありますし、高齢者あるいは障がい者の皆さんの福祉的な事業についても、継続的に行っていくことになっておりますが、重点的に行うのは、スポーツということで考えております。

#### ○北海道新聞社

そのスポーツというのはサッカーの合宿ですとか、あるいは日本ハムファイターズ2軍誘致などというのも背景にあるというような解釈で大丈夫でしょうか。

#### ■市長

はい。私も年頭の挨拶で今年はチャレンジの年ということで発信しておりますけれども、まさにスポーツに関わる、今言われたような取り組みに、しっかりとチャレンジして、実を結ばせていけるように取り組んでいきたいと思っております。

## ○北海道新聞社

以前、就任1年の節目になった際の定例記者会見で、これまでの岩倉市長の路線を引き継ぐところがあれば、変えていくべきところもあるというようなことをおっしゃっていましたけれども、今回の予算で特に変えたところとか、意識されたところというのを教えていただければと思います。

## ■市長

そのような意味ではいくつかあるとは思いますが、特筆しているのは今回組織機構改革を行いまして、4月から新体制で取り組んでいきます。それぞれで新たに社会課題に取り組んでいくべく、組織を変えております。なので、そういったものが該当するのかなと思います。

スポーツでいえば、例えば日本ハムファイターズファーム施設の誘致も、岩倉市政では取り組んでいなかったもの、私も公約で具体的に言っていなかったものでもありますけれども、取り組みのテーマとして掲げております。

今後の住宅のあり方についても、公共と民間とがどういった形で市民の皆さんの住居の問題について取り組んでいくかという視点で、新たに組織を作っておりますし、あるいはふるさと納税も、今後の様々なチャレンジをしていくに当たりまして、さらに強化をしていかなければいけない局面だと思っておりますので、そういった部署を作っております。

こういったものが岩倉市政を継承しながらも、新たに変えていく部分になるのかなと思います。

## ○苫小牧民報社

新年度予算の関係だったのですが、今回のこの金額のうちどれぐらいの比率で市長が関わって反映させたと考えていますか。

## ■市長

割合については即答することはできませんけれども、事業としては今申し上げたとおり、スポーツを重点的にやっていくこと。あるいは稼ぐ方、ふるさと納税の部分についても新たな取り組みを行っていくということで考えております。

ですから事業費の中でどれぐらいの割合かというところ、お答えにくいのですが、取り組む項目としては新たなものを盛り込んでおります。

## ○苫小牧民報社

事業項目でどれぐらいかというのは。

## ■市長

今すぐはお答えできかねます。ただ、主要事業でいいますと、新たなものは盛り込んでおります。割合がどうかというのは即答できかねます。

#### ○紙の街の小さな新聞社ひらく

予算の中で細かい部分にはなるのですが、今回新規事業で苫小牧市民文化ホールに係る文化芸術活動支援補助事業というのが600万弱の予算案で出てきています。

市長はこれまで利用料金に関して、現行の利用料金と比較してできるだけ近い形での補助のあり方を検討したいと、会見で述べられていますけれども、今回その補助の概要でいいのでどのくらい皆さんに補助がつくのかという部分と、それに対する市長自身の評価をお聞かせいただきたいです。

#### **■市長**

市民会館文化会館をこれまで利用してきた方々が、この後も文化芸術活動を続けやすいように、これまであった減免制度、これに代わる補助制度というものを創設するということになりました。

大きくは「苫小牧市文化芸術活動支援補助事業」というものが1つ、それからもう1つ、「苫小牧市学校文化大会開催運営補助事業」というものを考えております。こういった補助制度という形で、利用者される方に少しでもこれまでと変わらないような環境を作ってあげられたらということで考えております。

#### ○紙の街の小さな新聞社ひらく

補助率を知りたかったのですがよろしいでしょうか。

#### **■教育部次長**

今のところ予算の範囲内ということにはなりますけれども、大体会場の使用料の5割から3割程度の補助になるということで考えております。

#### ○紙の街の小さな新聞社ひらく

今回新規で学校給食費の事業が上がっていましたが、国が無償化を進めるということで、ただ1人当たり5,200円ほどという報道があり、苫小牧市の中学校ではカバーしきれない部分が出てくるのかなと思うのですが、その辺りどういう取り扱いの予算になっているのかということをお聞かせいただきたいです。

#### **■教育部次長**

本日午後から学校給食会の審議会がありますので、そちらで全て公表することになりますので、今お答えできない部分がございます。

ただ国の動きとしては、小学校の抜本的な負担の軽減ということで、まだ正式ではないのですが、小学校の保護者の負担を軽減するという動きではありますので、そちらは本日午後からの会議で決定することになります。

## ○苫小牧民報社

新年度の選ばれるまちプロジェクトで、スポーツ都市宣言 60 周年にかけたと思うのですが、この事業を新年度行うことでどういったことを期待しているのでしょうか。

### ■市長

先日終わりましたスケートまつりがありましたけれども、あれも 60 回の記念すべきお祭りでしたが、やはりスケートをはじめ苫小牧はスポーツを通じて健全な精神や体を育成し、なおかつスポーツにも親しんでいくというような宣言をしまして、いろいろな取り組みをやってきました。

直近では、プロスポーツに関わる動きというものが顕著だと思います。名古屋グランパスさんのトレーニングキャンプが夏に実施される予定ですが、それによってこれまでとは違ったプロサッカーを楽しめる、そういった機会が、市民にももたらされるものと思いますし、サッカーファンを含め、そういったまちの賑わいを市民が感じることができるような機会を作ることができるのではないのかと考えております。

それから日本ハムファイターズのファーム施設の誘致についても、これまでも期成会の結成も含めいろいろな動きが出てきて、まちの賑わいといいますか、広域でも取り組んでおりますけれども、非常に盛り上がってきているところがあります。

こういったもの 1 つ 1 つが、やはりスポーツを通じてこのまちの豊かさを生んでいくということに繋がっていると思いますので、日本学生氷上選手権も来年度予定されておりますが、宿泊、飲食、こういった地域経済にもたらす効果はもちろん、市民がスポーツをする、あるいはスポーツを見る、こういった様々な形での豊かさを生んでいくことが、来年度の中で展開されるのかと期待しております。

## ○北海道新聞社

今回の予算全体を見て、市民が関心あるのは、市長はどういうまちを目指すのかということころだと思うのですが、ご自身で来年度どういうまちを目指すための予算だといえるのか、また昨年より減額はしておりますけれども、過去 2 番目の高さということで攻めの予算といえるのかどうか、その 2 点お願いします。

### ■市長

内部的なお話になりますけれども、来年度の予算編成にあたっては、未来を切り開く、あるいは未来に繋がる予算ということを位置づけて予算編成作業に当たりました。様々なテーマがあります。スポーツ、観光、経済、DX、GX、こども どもんなか、あるいは地域医療、こういった様々なチャレンジテーマがありますので、そういったものを包括して、苫小牧の未来をしっかりと切り開いていけるように、組織機構改革もそうですが、その第一歩となるような年度と位置づけております。

様々な国の実証、あるいは民間の大きなプロジェクトの動きもありますので、そういったも

のを1つ1つしっかりと捉えながら、雇用を生み、そして税収に繋げていき、社会増から自然増に、長い目で見たときに繋げていけるような、そういったまちづくりをしていきたいと思っておりますし、半導体、ラピダスの動き等もしっかりと歩みをともしながら、苫小牧が発展できるチャンスを掴んでいくということも、この新年度の中で取り組んでいきたいと思っております。

#### ○朝日新聞社

専決処分、総選挙関連ですが、前回に比べてどの程度増えているのか、減っているのかというところをお願いします。減らせた部分というのはあんまりないと思うのですけれども、冬季の実施ということで、例えば公営掲示板の設置の労務費とかは、冬季手当があるのかどうかわからないのですが、夏季と比べてかなり作業が面倒であったり、時間がかかったりするのではと思うのですが、その辺明らかに今回新規です、みたいな項目があれば教えてもらえますか。

#### ■財政部長

全体の経緯については、後ほどお知らせをしたいと思います。おそらく、労務単価の上昇ですとか、そういったことで経費は上がっているとは思いますが。冬場の選挙なので、その分の経費がどのくらい上がっているかというところ、今数字的に持ち合わせていないので、お調べをして後ほどお伝えさせていただきたいと思います。

#### ○北海道建設新聞社

当初予算案の中で、企業誘致の関係でお尋ねしたかったのですけれども、今回「選ばれるまちプロジェクト」ということで、その中には、おそらく企業誘致等の取り組みも入っていると思うのですが、今回立地企業サポート事業ですとか、諸々予算編成されているかと思うのですけれども、市長がお考えになる中でどれぐらいご自身の思いが企業誘致関係の事業費として反映できたのか、お聞かせいただきたいと思います。

#### ■市長

「選ばれるまちプロジェクト」として来年度はスポーツに特化をしています。資料にも書いておりますけれども、この中には企業誘致は特に含まれておりません。ただ日本ハムファイターズ含めて、こういったスポーツ関係の誘致という意味では企業誘致にもあたるかもしれませんが、今、ご質問にあったような、一般的に言ってらっしゃる企業誘致というのは、これまでもそうだったように、継続的に取り組んでいきたいと思っています。

半導体はもちろんですが、GX関連、あるいはデータセンターを含むDX関連、こういったものが中心になろうかと思っておりますけれども、それ以外にも苫東さんに様々な企業が今進出してありますし、引き合いも含めていろいろなお話もありますので、そういったものをしっかりと捉えてチャンスをものにしていきたいと強く思っております。

○NHK

「選ばれるまちプロジェクト」について、来年度はスポーツに関することにされるということですが、それでも「こども どもんなかアクション」これは一旦下ろして、来年度はスポーツにするという認識でよろしいでしょうか。

**■市長**

はい。「選ばれるまちプロジェクト」として重点的に示して行うという形は、この「スポーツシティ 苫小牧プロジェクト」ということに新年度はなります。

ただ先ほど申し上げましたけれども、今年度取り組んできている「こども どもんなか」という政策そのものはこれからも継続的に行っていきたいと思っておりますので、やめるということではなくて継続的に行っていくつもりでおります。

○NHK

選ばれるというのは市民から、他の地域から苫小牧を選んでいただくということだと思っておりますが、ファイターズからも選んでもらいたいという思いも込められているとは思っておりますけれども、その辺の期待ですとか、準備に対しても予算をつけてやっていくということでもよろしいでしょうか。

**■市長**

はい、そのように考えています。

○朝日新聞社

新年度はスポーツ都市宣言から 60 周年という節目の年なので、スポーツをテーマにやっていくということですが、再来年度はもうスポーツに関しては最低限のことをやり、あとは知らないというそういうイメージでいいのでしょうか。

「こども どもんなか」は多分、細く続けていきどこかの拍子でまた予算とかがあるのでしょうかけれども、1 番懸念しているのは、今年の 6 月とも言われていますけれども、日本ハムファイターズ 2 軍施設はどこになるのかというのが決まると伺っております。ここでもし苫小牧市が外れたとすると、来年以降はスポーツによるまちづくりが尻すぼみになってしまうという懸念があるのと、それからもし選ばれた場合は、今度は再来年度さらにこの規模ではない日本ハムファイターズを中心とする、スポーツ関連のまちづくり事業費が幅を利かせてしまって、次どういう「選ばれるまちプロジェクト」になるのかわからないですが、それが日陰に置かれてしまう危険性はないのかという勝手な心配をしているのですが、その辺はいかがでしょうか。

**■市長**

スポーツを来年度重点的に取り組み、それが終わったら、もうスポーツをやらないというわ

けでは決してなくて、これまでもスポーツ都市宣言して59年やってきておりますとおり、様々なスポーツ施設を作る、あるいはアイスホッケーをはじめ大きい大会の誘致等々やってきております。今回、組織機構改革の中にも、スポーツと観光を一緒にして新たにスタートを切るといものがあります、スポーツの持っているポテンシャルというのは非常にそういった地域経済、観光という視点でも大きいものがありますし、このあと宿泊税の導入も視野に入れながら苫小牧市は動いております。

これはひとえに、やはりスポーツを起爆剤として、観光と繋げ、地元のそういった宿泊業者の皆さまに新たなメリットを感じていただけるようなことを展開していきたいという思いも私は持っておりますので、なお一層アイスホッケーをはじめ、野球、サッカー、グランパスさんもそうですけれども、ずっとこのスポーツを通じて、このまちの発展というものを望んでいくということを今考えております。

ファイターズの2軍施設が実現すると、またさらに大きな広がりが出てくるとは思いますが、それが仮に実現出来なかったからといって、尻すぼみになるとは全く考えておりません。

#### ○紙の街の小さな新聞社ひらく

今回、都市再生コンセプトプラン推進事業の中で、国際リゾートの推進という項目が入ってきています。今年、観光庁が候補地を再募集するという報道がありますけれども、ここに明記をされた市長のお考えというのをお聞かせいただきたいです。

#### **■市長**

私も公約にIR統合型リゾートの誘致を掲げておりますけれども、国の方の動きが顕著になってまいりましたので、北海道としっかりと歩みをともにしながら、誘致に向けてこれからはしっかりと取り組んでいきたいと、チャンスを逃さないように頑張りたいと思います。

#### ○紙の街の小さな新聞社ひらく

募集する権利というのは苫小牧市ではなく、北海道にあると思うのですが、再公募で募集するという前提で北海道への働きかけを行っていくというお考えなのでしょうか。

#### **■市長**

働きかけもそうですし、IRそのものが北海道の経済、苫小牧もそうですけれども、様々な発展に繋がるものと思っておりますので、そのために北海道に対して協力できるものは協力し、サポート支援をするものはしていきますし、また我々でできることもあると思いますので、それはしっかりと北海道の動き、国の動きを把握しながら遅れることなく手を打っていきたく思っております。

## <その他 案件以外について>

### ○苦小牧民報社

この地域から国会議員が2人誕生したのですけれども、それに対する市長の受け止めなり、期待のコメントをいただきたいです。

### ■市長

まず今回、非常に急転直下の中での解散総選挙となりましたし、また時期的にも非常に寒い中での選挙となりましたので、全ての候補者の方々に、あるいはその候補者を支えて選挙活動に関わられた全ての皆さまに、敬意を表したいなというふうに思います。

今回この9区では、選挙区、比例区それぞれお1人ずつ議席を取られましたので、お祝いを申し上げたいと思いますけれども、先ほども申し上げましたとおり、地方自治体が抱える問題、とりわけ苦小牧市が抱える問題だけ見ても、地域医療をどう守っていくのか、あるいは物価高騰等で、大変生活に影響を受けている市民・国民の生活をどう向上させていけるのか、あるいは産業都市である苦小牧がこれから発展していくためにGX、DX、あるいは半導体関連、このチャンスを掴んでいくための国の動き協力、あるいはそれに関わってまいりますけれども、港湾の整備、JRを含む公共交通、こういったものについてもどういった形でこの地域課題を解決していただけるのかというのは、もう喫緊の課題でございますので、この9区で2議席国会議員がいらっしゃるということは非常に心強いところもありますから、これは政党、会派それぞれ立場あるかと思っておりますけれども、ある意味ではそういったものを越えて地域課題を共有して、我々と一緒にその課題の解決とこの発展に向けた、取り組みを力強く推進していただきたいと思っております。